

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

6月前半着	1,092.00	(13.50)
6月後半着	1,084.50	(13.00)
7月前半着	1,079.00	(12.50)
7月後半着	1,075.00	(12.00)
8月前半着	1,071.75	(11.75)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価値

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月後半着	+15.25	+8.75
6月前半着	+13.00	+8.25
6月後半着	+9.13	+5.50
7月前半着	+6.63	+3.63

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	JUN
WTI	112.24
BRENT	124.09

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

26 日のナフサ C&F JAPAN は 1080.75 ドルと続伸、クラックスブレッドは続伸。アジアのファンダメンタルズは、極めて逼迫した状態が続いている。欧州からの裁定玉の流入を期待しショートポジションに構えていたプレーヤーは、一向に裁定玉の流入が見られないことから買戻しを進めている。そのため、中東やインドからのスポット販売が高値で成約されており、タイトな状況がさらに深まる格好となっている。このような状況下、エンドユーザーの 6 月前半到着玉のスポット商戦が始まった。台湾や韓国のエンドユーザーが買付けテンダーを発表、その結果が注目された。ブラツタイムは買い手優位で始まり、その後韓国のエンドユーザーに集まったオファーが、予想以上に高値であったことから買付けを見合わせたとの噂が広がり、期近玉を中心に積極的に買い上がる動きとなった。クラックスブレッドは大幅に上昇し、ナフサ価格もリーマンショック以来の高値を更新した。本日のアジア市場は引き続き堅調な動きとなる。今後のエンドユーザーの動きに注目が集まる。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,257		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	51,929		
11-1Q			50,139	50,384	52,100	52,400
11-Apr	983.47	82.45	56,354	(4)		
11-May	1,047.88	81.49	59,348	(58)		
11-Jun	1,084.69	81.50	61,439	(353)		
11-2Q			59,047		61,000	(100)
11-Jul	1,083.25	81.51	61,368	(431)		
11-Aug	1,078.62	81.53	61,118	(403)		
11-Sep	1,074.99	81.55	60,927	(376)		
11-3Q			61,138		63,100	(400)
11-Oct	1,072.27	81.57	60,790	(353)		
11-Nov	1,070.04	81.60	60,683	(341)		
11-Dec	1,068.00	81.63	60,588	(339)		
11-4Q			60,687		62,700	(400)
12-Jan	1,065.84	81.66	60,490	(335)		
12-Feb	1,062.96	81.70	60,355	(312)		
12-Mar	1,059.16	81.74	60,168	(265)		
12-1Q			60,338		62,300	(300)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

11 年 1Q 国産ナフサは 5 万 2400 円で決まり、弊社予想値 5 万 2100 円は -300 円の誤差となった。為替通関レートは円高に振れているが、本日のナフサ C&F JAPAN 評価値の上昇想定幅が上回り、MOF 評価値は総じて上昇することが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 100 円高の 6 万 1000 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	JUN	112.21	(0.07)
	JUL	112.71	(0.04)
ICE / BRENT	JUN	124.14	(0.48)
	JUL	123.78	(0.49)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	335.72	(3.43)
NYMEX / Heating Oil	MAY	321.11	(2.91)
ICE / Gas OIL	MAY	1,017.75	(8.50)

マーケットコメント

26日の原油相場は、ロンドン市場は小反発、NY市場は小幅統落。ドル安や株高が下値を支えたが、約2年7カ月ぶりの高値を付けた反動から利益確定を進める動きに押された。

対ユーロでドル安が進んでいる。米連邦公開市場委員会(FOMC)が超緩和金融政策を継続するとの見方からドル売りが先行し、対ユーロで6営業日統落となっている。株式市場では、米企業の好調な業績を手掛かりに買いが優勢となり、NYダウは約2年11カ月ぶりの高値を付けている。また、コンファレンスボードが発表した4月の米消費者信頼感指数は前月から上昇、市場予想を上回った。米経済の力強い回復が示された訳ではないが、経済に対する先行き不透明感は幾分後退した格好。ドル安、株高からリスク選好の流れが意識されやすい地合いにあり、かつ景気回復に伴う石油需要の増大への期待もあったが、上値を切り上げるだけの決め手とはならなかった。本日のFOMC後のバーナンキ米連邦準備理事会(FRB)議長の会見を控えていることや在庫統計の発表を控えていること、また前日に約2年7カ月ぶりの高値を付けたこともあり、持ち高調整中心の動きで方向感を欠くなか、利益確定の売りが優勢となったとみられる。

なお、米エネルギー情報局(EIA)に先行して米石油協会(API)が発表した週間石油統計で、原油在庫は前週比490万バレル増となり、事前予想の100万バレル増を上回った。ガソリン在庫は同210万バレル減(事前予想130万バレル減)、中間留分在庫は同150万バレル増(同40万バレル増)となった。

トピックス

「3月の輸入ナフサ価格、5万1929円/KL = 財務省貿易統計」

本日財務省が発表した貿易統計によると、3月のナフサMOF価格(速報値)は前月比1725円高の5万1929円/KLとなった。前月の確報値は5万0257円と速報値から53円の上方修正。輸入数量は197万0425KLと前月から34万9085KL減少した。

また、3月の原油MOF価格(速報値)は前月比3656円高の5万3355円/KLとなったことで、ナフサと原油のクラックスプレッドは、2月の558円の順ザヤから1426円の逆ザヤへと転じた。

	第1数量(KL)	第2数量(kg)	価額(千円)	ナフサMOF(円/KL)	比重換算
Jan-11	2,325,840	1,616,153,911	114,437,068	49,202	0.6949
Feb-11	2,319,510	1,610,612,478	116,570,551	50,257	0.6944
Mar-11	1,970,425	1,371,755,499	102,321,857	51,929	0.6962

(出所:財務省の統計を基に算出)

なお、3月の主要石油化学製品輸出入統計は、別途添付ファイルをご参照下さい。

「1Q国産ナフサ価格、5万2400円/KL = 財務省貿易統計」

本日財務省が発表した貿易統計により、3月の輸入ナフサ価格(速報値)が出たことで、第1四半期(1-3月期)の国産ナフサ価格が決定した。2011年第1四半期の国産ナフサ価格(1-3月輸入合計額の単月輸入数量での加重平均プラス2000円)は、前四半期比7300円高の5万2400円となった。

「2月のユリア樹脂輸入単価、安値トップ10」

2011年2月の熱硬化性樹脂のユリア樹脂輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比60トン減の64トン、輸入価額は1422万1000円となった。原産地別輸入数量の割合は、中国が41%、イタリアが37%、ドイツが20%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比29円高の222円/kg。貿易統計上のユリア樹脂は、用途での区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量(kg)	価額(1000円)	単価(円/kg)	単価(ドル/MT)
東京	イタリア	23,750	1,685	71	850 - 868
四日市	中国	5,500	408	74	889 - 907
大阪	中国	16,232	1,818	112	1,343 - 1,370
東京	中国	4,500	1,057	235	2,816 - 2,873
大阪	台湾	1,000	277	277	3,321 - 3,388
横浜	ドイツ	8,760	5,489	627	7,511 - 7,664
名古屋	ドイツ	1,600	1,233	771	9,238 - 9,425
大阪	ドイツ	2,375	1,934	814	9,762 - 9,960
東京	米国	243	320	1,317	15,786 - 16,107

(出所:財務省)

Daily Market Report

「ポリマー輸入品(アジア・スポット市況連動)国内需要家渡し想定値」

アジアのポリマー市況は小幅まちまち。オレフィン系ポリマーはほぼ横ばいで、スチレン系ポリマーは前週同様に上昇する動きとなっている。

オレフィン系ポリマーは小幅まちまち。ポリエチレン(PE)は、C&F JAPAN 想定値ベースで前週比変わらずから 5 ドル安。引き続き在庫水準は高く、さらに日本のプラントの再稼働予定もあり、弱気なファンダメンタルズに上値を抑えられている。一方の PP は前週比変わらずから 10 ドル高。アジア域内の PP 需要に大きな変化は見られていないが、欧州市場の上昇に連れ高している。ペトロラービグの 70 万トン/年の PP プラントが今月末に定修入りする予定で、リビアからのプロピレン供給不足を背景にエジプトのオリエンタル石化も稼働を上げられない状況にあり、欧州の PP 需給が引き締まっている。アジアから欧州への玉の流出も想定され、確りとした動きとなる公算が大きい。

スチレン系ポリマーは軒並み上昇。ポリスチレン(PS)は、前週比 10 ドル高から 20 ドル高と続伸した。特段目新しい材料は見当たらないが、引き続き中国の EPS 規制緩和や堅調な原料スチレンモノマー(SM)市況を受け、前々週の確りとした地合いを継続している。一方の ABS 市況は前週比 10 ドル高と続伸している。シンガポールのエルバ・イースタンの稼働中断により供給不足が懸念され、原料ブタジエン市況が大幅な上昇となっていることにサポートされている。ただし、中国の利上げにより家電向け需要などの落ち込みも懸念されており、上昇したものの上値の重い商状。

なお、国内需要家渡し想定値に関しては、アジア市況は総じて小幅に値を上げているものの、為替通関レートが前週から 1.27 円の円高ドル安に振れたことが影響し、総じて値を崩すことが想定される。(想定為替レート:1ドル=82.18円)

ポリマー	C&F Japan(主要港) 5-6月着(ドル/MT) 想定算出基準	DDP(主要港から50km圏内大口需要家渡し) 5-8月渡し(円/kg)			
		20ft. コンテナ直送		4tトラック配送	
		特惠国産	非特惠国産	特惠国産	非特惠国産
PP (HOMO)	1,695 (- 10)	151 (1)	159 (1)	157 (1)	164 (1)
PP (COPOLYMER)	1,730 (±0)	153 (2)	157 (2)	159 (2)	162 (2)
LDPE	1,715 (±0)	153 (2)	161 (2)	159 (2)	166 (2)
LLDPE (Comonomer 5%以上)	1,410 (5)	125 (2)	128 (2)	131 (2)	134 (2)
HDPE	1,420 (±0)	127 (2)	134 (2)	133 (2)	139 (2)
GPPS	1,590 (20)	142 (±0)	149 (±0)	148 (±0)	155 (±0)
HIPS	1,770 (10)	157 (1)	161 (2)	163 (1)	167 (2)
ABS	2,320 (10)	205 (2)	210 (2)	211 (2)	216 (2)

()内は前週の想定値との比較

ポリオレフィン:17MT パレット付き(20ft コンテナあたり)X6 コンテナ(輸入)、PS・ABS:17MT パレット付き(20ft コンテナあたり)X2 コンテナ(輸入)、いずれもフリータイム内搬出、20ft コンテナ直送(輸入後2週間以内)は、海上保険、関税、CHC、D/O FEE、通関料、乙仲手数料、コンテナドレージ、商社マージン他諸経費等を考慮し算出

4tトラック配送は、倉庫保管期間を約3ヶ月とし、上記に加え、4t車チャーター料、デバン入出庫料、倉庫保管料等を考慮し算出
経済連携協定のある国において、関税率がWTO協定、GSP等と異なるものはこの限りではない

「可塑剤値上げへ = DIC」

DIC は 25 日、可塑剤について価格改定を実施することを明らかにした。対象製品および価格改定幅は、ポリエステル系可塑剤がプラス 28 円/kg、アジピン酸系可塑剤がプラス 20 円/kg、トリオクチルトリメリテート(TOTM)がプラス 19 円/kg、その他トリメリット酸系可塑剤がプラス 42 円/kg、ゴム用可塑剤およびその他特殊可塑剤がプラス 30 円/kg 以上で、改定時期は 5 月 12 日出荷分より。なお、ドラム缶・石油缶などの荷姿品については、プラス 5 円/kg。可塑剤の主原料である有機酸、アルコール類、グリコール類は、原油・ナフサ価格のさらなる上昇およびアジア地区での需要逼迫を背景に一段と値上がりしており、また鋼材価格も同様に値上がりしていることから、ドラム缶・石油缶などの容器コストも上昇している。原材料の値上がりに伴うコストアップ分の吸収に取り組むも、自助努力による吸収の限界を超えており、安定供給維持のためにも価格は正は避けられないと判断した。

「ABS系樹脂値上げへ = テクノポリマー」

テクノポリマーは、ABS系樹脂(ABS、MUH、AES、ASA、AS、アロイ等)について価格改定を実施することを明らかにした。価格改定幅はプラス 25 円/kg で、価格改定時期は 5 月 9 日納入分より。原油・ナフサ価格等の国際取引価格の上昇に伴い、ABS系樹脂の各種主・副原料価格が高騰しており、ユーティリティコストや物流費も含めてさらなる上昇が想定される。様々な社内合理化に取り組むも、原料等の高騰の影響は自助努力で吸収できる範囲を超えており、製品の安定供給継続のためにも価格改定をせざるを得ないと判断した。

「ABS・透明樹脂値上げへ = 電気化学工業」

電気化学工業は 26 日、ABS・透明樹脂について値上げを決定し、ユーザーとの交渉に入る予定であることを明らかにした。対象製品は、ABS、AS、耐薬 ABS(SR シリーズ)、ABS コンパウンド(ガラス繊維強化、摺動、PC アロイ等)、耐熱 ABS、IP、透明 ABS、透明樹脂(TP ポリマー、TH ポリマー、TX ポリマー各シリーズ)、ポリマーアロイ、クリアレンで、値上げ幅はプラス 25 円/kg 以上、改定時期は 5 月 16 日出荷分より。原油、ナフサ価格の高騰による各種原材料・燃料価格の上昇により、大幅なコストアップを余儀なくされており、コスト合理化に懸命に取り組むも、製品の安定供給ならびに事業維持継続のためにも、価格転嫁せざるを得ないと判断した。

「生分解性プラスチックの植物原料化 = 三菱化学」

三菱化学は 26 日、生分解性プラスチックの植物原料化に向け、植物由来のコハク酸(バイオコハク酸)の製品供給、研究開発および製造について、カナダの BioAmber および三井物産と提携したことを明らかにした。BioAmber は、バイオコハク酸の製造に成功しており、既に商業プラントを保有し事業展開を進めている。今回の提携で、生分解性プラスチックの原料であるバイオコハク酸を BioAmber から調達が可能となるとともに、BioAmber のもつバイオコハク酸の既存のプロセス技術と、三菱化学のもつ高度生産技術および分離精製技術をそれぞれ組み合わせることで、より高効率なバイオコハク酸の製造技術の確立を目指す。

Daily Market Report

「自動車用樹脂成形品製造子会社を中国に設立 = 日立化成工業」

日立化成工業は26日、中国に自動車用樹脂成形品の製造子会社の設立を決定したことを明らかにした。同社の生産拠点は、日本をはじめ、中国、台湾地域、タイ、シンガポール、米国、メキシコに有しており、現地での供給体制を整えている。なかでも中国は、今後自動車市場のさらなる伸長が見込まれるため、それぞれの製品を生産しているが、内・外装成形品についてはこれまで同国の生産拠点がなかった。同国の内・外装成形品需要を取り込むためにも、中国河南省鄭州市の経済技術開発区に自動車用樹脂成形品の製造子会社を設立することとした。新子会社の名称は日立化成工業(鄭州)汽車配件有限公司で、今年5月に設立する。投資額は約19億円で、2014年1月の本格稼働開始を予定している。

「韓国で電子材料関連プラントを増設 = ADEKA」

ADEKAは、100%子会社ADEKA KOREA CORPORATION (ADKK)の第二工場にて、半導体向け新規成膜材料の生産設備増設を決定した。営業運転開始は2012年1月、投資額は10億円を予定している。同社グループの電子材料生産拠点は、鹿島工場と韓国完州郡のADKKにあるが、来年以降の半導体向け新規成膜材料の需要は、現在の供給能力を大きく上回るが見込まれるため、既存の生産能力に比べ約3倍となる量産設備をADKK第二工場に建設し、供給体制を構築する。

「ハイバリアフィルム事業譲渡で合意 = 凸版印刷、クレハ」

凸版印刷とクレハは、クレハのハイバリアフィルム事業を凸版印刷に今年5月を目処に譲渡することで合意した。この合意に基づき、クレハは同事業に関わる営業権ならびに特許権、商標権およびノウハウなどの知的財産権を凸版印刷に譲渡する。凸版印刷はバリアフィルム事業を積極的に展開しており、今回の事業譲渡により製品ラインナップを拡充、バリアフィルム事業の一層の強化を図る。さらには、世界トップシェアを持つ凸版印刷の透明ハイバリアフィルム製品と今回譲渡するハイバリアフィルム製品の組み合わせによる新製品の創出を目指す。クレハのハイバリアフィルムは、基材のポリエステルフィルムに、アクリル酸系の樹脂を塗工した製品で、各種レトルト食品、農産物、調味料、各種ソース等に採用されている。

「微生物農薬原体製造工場建設 = 住友化学」

住友化学は26日、米国の100%子会社ベラントU.S.Aを通じて100%出資しているベラント・バイオサイエンス(VBC)が、微生物農薬原体の製造工場をアイオワ州オーセージ市に建設することを明らかにした。投資額は約1億5000万ドル(約128億円)で、2014年中の商業運転開始を予定している。新工場は、既存の微生物農薬事業の拡大のみならず、現在開発中である砂漠化や温暖化等に対応するための環境ストレス耐性付与剤など、新規分野の製品の生産にも寄与することが期待されている。

「PTAプラント建設 = JBF」

インド合繊大手JBFインダストリーズ・リミテッドは25日、オマーンでのPTAプロジェクトが遅れていることから、インドのマンガロール地区で112万トン/年のPTAプラントを建設することを明らかにした。詳細は不明。同社は、昨年2月にオマーン国営石油会社(OOC)との間でPTAプロジェクトを合併で実施するため覚書(MOU)を交わしていた。6億8000万ドルを投じてオマーンに建設される120万トン/年のPTAプラントでは、OOCが生産するPXを原料にPTAを生産する計画となっている。

「合成ゴムプラント増設 = 錦湖石油化学」

韓国石油化学大手錦湖石油化学は26日、1214億ウォンを投じてSSBRおよびSBRプラントを増設することを明らかにした。SSBRの生産能力は2万4000トン/年から同8万4000トン/年へ増強、またSBRも同8万トン/年へ増強される。同社は、タイヤや医療用手袋などの合成ゴム需要の増大に伴い、投資計画を1年前倒しする。独自の技術と専門化された生産運営のもと、欧州、北米、東南アジア向けへの需要変化に積極的に対応する計画である。

「2012年1Q、LDPE-3の商業運転開始 = QAPCO」

カタール石油化学(QAPCO)は、2012年第1四半期に低密度ポリエチレン(LDPE)の新プラント(LDPE-3)の商業運転を開始する。QAPCO、カタール肥料(QAFCO)、カタールスチール(QASCO)、カタール燃料添加剤(QAFAC)の4つの合併事業の持ち株会社として設立されたインダストリーズ・カタール(IQ)が明らかにした。5カ年ビジネスプランによると、メサード工業都市の新LDPEプラント(LDPE-3)の能力は30万トン/年である。同社の既存LDPEプラント2基(LDPE-1、LDPE-2)の能力は40万トン/年を超えており、これらは既に稼働可能な状態にある。世界でも指折りのLDPEサプライヤーとなり、同社の石化セグメントの純利益は2015年に32億カタールリヤル(8億7900万ドル)に達する見通し。2011年は25億カタールリヤルだった。